



一覧表

教官公募	267
酸性雨講演会「酸性雨の化学と森林枯損解明の科学」	275

編集後記：「天気」の編集に関わって数年経ち、20名ほどの編集委員の中では古参の部類になってしまいました。月1度の編集委員会では、論文や解説等の進捗状況の報告・3か月先までの記事の割り振りなどルーチン的な議事・議題以外に、新コーナーの立ち上げや既存のコーナーの問題点、記事のフォーマットや用語の変更・統一などの「その他」の議題が話し合われます。

委員になり立ての頃は、ほぼルーチンだけで会議が終わっていたように記憶しています。その頃に比べて軽いフットワークと情報収集能力を備えた若い委員が増えたせいか、最近では会議で配られる資料のみならず「その他」の検討時間が大幅に増え、会議の時間が以前の1.5～2倍程度になっています。定例の会議の他に電子メールでの事前のやり取りがあり、それを含めるともっと多くの時間が「天気」の編集に割かれていることとなります。時には、フォーマットの変更や用語の

統一の場合のように委員各人の感覚や語感の領域にまで話が飛び、收拾がつかなくなることもあります。編集委員長や副委員長格の理事の判断で話がまとまります。英文要旨の添付可、気象集誌・学会ホームページへの目次掲載、新コーナー「新刊図書案内」は、このようにして議論が具体化した結果です（「日々の衛星画像」のように諸般の事情で打ち切らざるを得ないものもありましたが）。

とは言え、委員の所属機関は同じ所が多く、情報源が限定されています。また、新委員が持ち込む情報量にも限度があります。読者から「〇〇誌に、こんなコーナーがある」という口コミ情報があると助かります。「天気」の質的向上のため（ページ数の量的拡大は学会財政を圧迫する！）、読者からの積極的な投稿・情報をお願いします。（大泉三津夫）